

熊谷市史編さん委員会・編集会議・専門部会 報告

(平成二三年一月～二月)

I 熊谷市史編さん委員会報告

一 熊谷市史編さん委員会委員の委嘱

市史編さん委員会委員の任期が平成二三年七月三十一日で満了となったため、次の方々に平成二三年八月一日から二年間、委員を委嘱した(敬称略)。

- 森 新一 (市議会議員)
- 松本 富男 (市議会議員)
- 小野 美代子(文化財保護審議会委員)
- 飯塚 好 (知識を有する者)
- 柿沼 幹夫 (知識を有する者)
- 北村 行遠 (知識を有する者)
- 宮瀧 交二 (知識を有する者)

二 平成二三年年度熊谷市史編さん委員会

日時 平成二三年二月二〇日(火)午後二時～
場所 熊谷市中央公民館 二の一会議室

【概要】

- 1 委嘱状の交付
- 2 委員長あいさつ
- 3 教育等あいさつ
- 4 委員長・副委員長の選出

II 熊谷市史編集会議報告

日時 平成二三年三月六日(日)午後二時～
場所 熊谷市立熊谷図書館 第二講座室

【概要】

- 1 経過報告
- 2 仏像調査について
 - ・平成二四年度より実施を予定している市内の悉皆調査について、専門委員委嘱予定の林宏一氏より構想を説明、その後、質疑と協議を行った。

3 各専門部会活動報告

- ・各部長より、進捗状況・課題点等を報告

4 事務局が行う基礎調査の活動状況

- ・古文書、民俗基礎調査、行政文書収集等の報告

5 平成二三年年度の計画について

6 熊谷市史研究について

7 その他

(文責 蛭間 健悟)

Ⅲ 専門部会活動報告

一 考古専門部会

考古専門部会長 柿沼 幹夫

平成二六年度刊行予定の考古資料編には、一〇〇〇頁という条件がある。質・量ともに豊富な熊谷地域の考古資料を、与条件の枠内に収めるためには、現在の学問水準に照らしながら重要度を勘案し、ランク付けする作業が不可欠となっている。そこで専門部会で作成した執筆要領案では、次のような遺跡のランク付けと分量を目安としている。

Aランク 二〇頁

Bランク 一〇頁

Cランク 五頁以下

Dランク 遺跡地名表のみ

各専門調査員は、担当時代ごとに必要により遺物を熟覧してランク付けを行い、一部遺跡の執筆を試みてきた。その執筆経験に基づき、ランク付けの合理性を相互確認し、今後の作業を効率よく行うためにも想定される総量を割り出す必要性が生じた。

その検討は、平成二三年六月二五日開催の第一回専門部

二 古代専門部会

古代専門部会長 宮瀧 交二

本年度の古代専門部会の活動は、『熊谷市史 資料編 2 古代・中世』の原稿執筆に総力を傾注した。

本部会が調査・研究の対象としているのは、古代武蔵国の現・熊谷地域にあたるエリアの関係史・資料である。ここで言うエリアとは、古墳時代の国造の支配領域を継承して成立したと考えられている政治的・経済的に一定程度の独立性・自立性を有していた空間としての郡(評)を指し、その対象となる史・資料とは、具体的には武蔵国の幡羅郡、大里郡、埼玉郡、男衾郡の四郡に関係した史・資料である。

一昨年度から継続してきた『新編 埼玉県史』や昭和三八年刊行の『熊谷市史 前編』、そして旧妻沼町・旧大里町・旧江南町の各町史といった既に刊行されている自治体史からの関係史料の確認作業、更には昨年度から着手した、これまで関係自治体史において等閑視されてきた新たな関係史料(具体的には武蔵国埼玉郡の出身で最澄に次いで第二代天台座主となった円澄に

会、一〇月八日の第二回で行った。検討の結果、ランク通りに行くと総頁が一七〇〇頁にも及んでしまうことになり、登載遺跡とそのランク付けの再検討が必要となった。再検討には、旧妻沼町と旧大里町出土資料で報告書未刊行の資料の実態を把握することが必須となった。旧大里町関係資料については、十一月二日に大里整理事務所第三回専門部会として、旧妻沼町関係資料は、一二月四日に妻沼文化財倉庫及び市史編さん室で第四回専門部会として資料調査を行った。

この調査によって未報告資料の把握ができたが、資料編登載の是非については、総量、整理・実測等の体制・期間を考慮して検討することとした。平成二四年度当初には、登載遺跡の一覧とランク付け、章立てを作成することを別途としている。重要資料ながら資料編登載が困難なものは、通史編の記述に生かせるところまではもっていききたい。

妻沼文化財倉庫、市史編さん室には、在野の研究者であった(故)前原儀久氏の収集資料も所蔵されている。氏のコレクション中には熊谷市以外の資料も含まれているところから、郷土出身の考古学関係者ということで、別途、取り上げられることを考慮することとした。

関する史料、武蔵国関係の木簡「旧武蔵国内出土の木簡及び藤原京・平城京等から出土した武蔵国関係木簡」、そして和歌をはじめとする文学作品等の検討・抽出作業が終了し、原稿執筆の第一次候補として抽出した史料は、約二〇〇点に上った。そして、これらの史料について、更なる検討・協議を加えて絞り込んだ結果、最終的に今回の『熊谷市史 資料編2 古代・中世』に掲載する史料は二六点となった。また、これとは別に、地域の古代遺跡から出土した墨書土器や刻書紡錘車等の資料も収録することとした。

以上の作業を経て、各専門調査員は原稿執筆作業に着手し、予定通り一二月末までに第一次原稿が出揃った。今後は、年度末までに、専門部会長が各専門調査員から提出された原稿の統一作業を終える予定であり、当初の行程通り、『熊谷市史 資料編2 古代・中世』の古代関係の原稿が完成する予定である。

なお、本年度の専門部会会議は、八月一日、一〇月二二日、及び一二月二三日に開催した。

三 中世専門部会

中世専門部会長 高橋 修

1 専門部会会議の開催

① 古代・中世専門部会合同会議・平成二二年度第三回専門部会会議

平成二三年一月一〇日 市立熊谷図書館

古代専門部会との合同会議では、本の体裁、掲載史料、レイアウトや解説などの本の内容、原稿の入力方法の詳細、提出時期等について、協議・確認を行った。第三回会議では、本の内容の詳細について協議し、今後のスケジュールについて確認した。

② 平成二三年度第一回専門部会会議

平成二三年六月一〇日 市立熊谷図書館

選択した史料について持ち寄り確認をした。また、提出原稿の詳細や刊行までのスケジュールについて協議を行った。

③ 平成二三年度第二回専門部会会議

平成二三年九月二六日 市立熊谷図書館

掲載史料の詳細、金石文や系図の掲載方法、解説・凡

例等の本の内容、本の装丁、写真集、今後の調査などについて協議を行った。

2 文献史料調査

① 群馬大学図書館所蔵文書調査

平成二三年四月一六日、群馬大学図書館所蔵の「松陰私語」及び「新田文書」の調査を行った。

② 兵庫県丹波市久下文書調査

同年八月二二日～二四日、兵庫県丹波市内の久下氏関係文書の調査を行った。一日目は、丹波久下氏の菩提寺長慶院等の調査、二日目は、丹波市教育委員会所蔵文書と石龜寺文書、久下靖家文書の調査、三日目は、引き続き久下靖家文書の調査を行った。

③ 愛知県豊田市猿投神社文書調査

同年九月二〇日、愛知県豊田市の猿投神社にある中条氏に関する文書の調査を行った。中条氏は、鎌倉時代、尾張守護となり、三河高橋荘地頭職を相伝していた。

④ 日向嶋田家、葛和田大龍寺文書

同年一〇月一六日、市内秦地区の調査を行った。日向嶋田家は、長井神社(日向八幡宮)宮司を務める家で、戦

国時代には木戸氏等に仕え、日向城主であったという。

中世からの書き継ぎがあるとす。「武州幡羅郡長井之庄日向鎮守八幡宮御鎮座伝記」を調査した。次に、葛和田大龍寺にて、「幡随意白道書状」ほかを調査した。

3 石造物調査

① 個人所蔵善光寺三尊陽刻板碑調査

平成二三年二月一九日、川崎市松田光氏が所蔵される善光寺三尊陽刻板碑を調査した。詳細は○頁参照。

② 旧熊谷市域北西部調査

同年六月まで、昨年を引き続き、奈良、中条、大幡地域の調査を行い、一部を除き調査が終了した。この地区全体で、約三二〇地点、板碑・五輪塔・宝篋印塔など四一〇点強を確認した。このうち、今回の調査で新たに確認できたものは二八一点、逆に確認できなくなったものが四二点であった。

③ 中世石造物調査会議

同年七月一〇日、中世石造物調査会議を開き、昨年度の調査結果を報告し、本年度の調査計画を審議した。

④ 旧熊谷市域北東部調査

同年七月以降、別府地区及びその周辺についての調査を行っている。

⑤ 立正大学との共同調査

同年七月一〇日、一七日、二四日、立正大学との共同調査が行われた。立正大学文学部教授池上悟専門調査員を指導者として、奈良、中条地区の調査を行った。

⑥ 秋田県鹿角市成田氏関係板碑等調査

同年八月二〇、二一日、秋田県鹿角市にある成田氏に關係する板碑等の調査を行った。

4 資料編2の執筆

平成二三年より、平成二四年度中の刊行に向け、各担当による資料編の執筆が始まっている。史料掲載数は一二〇〇点を超え、各担当の執筆量は膨大なものとなっているが、順調に進んでいる。平成二四年三月までには各担当からの一次原稿の提出を終え、四月以降に印刷業者への入稿、校正作業を進めていく。また、写真集の編集についても、同時に進めていく予定である。

四 近世専門部会

近世専門部会長 北村 行遠

近世部会では、平成二三年の主な活動として、平成二二年度第二回部会、平成二三年度第一回部会を開催した。平成二三年度はあと一回の部会を予定している。また、本年も史料所在調査をおこなった。以下、部会の活動内容について略述する。

平成二二年度第二回近世部会(平成二三年二月一七日)

・古文書調査について

編さん室より古文書の所在確認・調査状況の報告があり、調査終了の文書群として、妻沼の荒井映吉家文書をはじめ一一件の説明があった。つづいて現在調査中の文書群について、青山の根岸友憲文書をはじめ一六件の報告をうけた。中には一万点を超える文書群もあり、地域の歴史を知る上で特色のある貴重な古文書が継続して調査されているとのことであった。このほか新たに借用した文書群として、葛和田の荒川宗一郎家

文書をはじめとした五件の説明があった。

部会の議題として、文書館、博物館、図書館など他機関に所蔵されている市史関連史料の対応について検討がなされた。市史編さんをおこなう上で必要と思われる文書群については、調査の必要性があるとの意見が専門調査員よりなされたが、具体的な点については今後の課題となった。また、所在情報などを含め、他機関に収蔵される古文書の情報提供を編さん室へ依頼した。

・史料所在調査について

昨年度に引き続き、市内の史料所在調査をおこなうこととなった。本年度は、これまで古文書があまり発見されていない葛和田や久下など、かつて河岸場であった地域を中心に調査をすることが提案された。

平成二三年度第一回近世部会(平成二三年一月二日)

・古文書調査について

編さん室より古文書の所在確認・調査状況の報告があり、調査終了の文書群として、筑波の柳澤家をはじめ

八件の説明と目録データの配布がなされた。また、現在調査中の文書群について、本石の竹井輝彦家文書をはじめ一六件の報告をうけた。このほか新たに借用した文書群として、男沼の高柳初衛文書ほか九件、購入、寄贈・寄託された文書群として新堀新田の石丸家文書をはじめとした三件の説明があった。なお、購入史料に関していえば、本年度は市内の古文書がいくつかの古書店の目録に掲載されていたことが判明し、可能なものについて購入したとのことである。編さん室としては、なるべくこうした情報も収集していく旨の報告をうけた。

・史料所在確認調査の結果について

専門調査員による所在確認調査の結果報告があった。調査は平成二三年二月二六日(土)、二七日(日)の二日間おこなわれた。押切、葛和田、久下など、かつての渡船場や河岸場であった地域を中心に調査したが、それらに直接関係する古文書を見出すことはできなかった。ただし、聞き取り調査などをおこなう中で、かつて問屋を営んでいた家々の所在や渡船場などの位置な

どを確認することができ、新たに訪問すべき必要性も生じたため、今回不在であった諸家の調査も含めて調査を継続することについて専門調査員より要請があった。

・史料所蔵機関所蔵文書の調査について

市史編さん室より他機関に所蔵される市内の古文書の報告をうけた。なかでも、専門調査員の高橋伸拓氏の提案もあり、複数の機関に分散して所蔵される吉田市右衛門家文書の所在調査について検討がなされた。吉田家はこれまでも多くの研究論文で紹介されているが、全体像を含め不明な点も多く、目録化をする方向で調査を進めることとなった。

五 近代専門部会

近代専門部会長 村田 安穂

1 平成二二年度第三回近代専門部会

(平成二三年二月一三日)

平成二四年度調査実施開始に向けての計画について各個人の分野別分担の確認を行った。

事務局が行っている古文書等の調査について配布資料を基に報告がなされ、写真資料調査の進捗状況についての説明があった。また、これまで検討してきた調査カードの見本が示され、表記内容を訂正し、提示するよう指示した。新聞については調査・収集方法について意見が出て、明治から終戦まで主要紙を網羅的に収集していく方針となった。

2 平成二三年度第一回近代専門部会

(平成二三年五月二二日)

平成二三年度の活動計画について、事務局が行っている古文書等の調査状況の報告があり、近代関係の資

料についての言及があった。資料収集では、公文書、行政文書、諸家文書、新聞雑誌等の刊行物などが考えられる。公文書は、県立文書館収蔵分については、簿冊でも

かなりな分量になるが、目録のコピーで各自分担の箇所を確認する。行政文書収集方法についてある程度知識を有する者を協力員にあてて作業を進める。第一に文書館収蔵行政文書、第二に市調査分(諸家文書など)、第三に両者から取りこぼし分を収集する。行政文書収集、新聞資料の目録化を優先して調査し、ある程度目途がついたら市所蔵の行政文書を調査していくこととした。また、地誌関係として大里郡郷土誌が深谷図書館に所蔵しており、近代の熊谷地域の地誌として重要なので収集する必要があるとの意見が出た。

行政文書・新聞資料の収集についての計画案を事務局で作成して次回の会議で協議することになった。

3 平成二三年度第二回近代専門部会

(平成二三年九月一日)

事務局が作成した調査計画の行程表(案)を基に、資

六 現代専門部会

現代専門部会長 黒須 茂

1 平成二三年度第一回現代部会

(平成二三年七月一七日)

次年度より本格調査が開始されることから、調査の方法と体制について協議を進めた。市行政文書の内容や閲覧など具体的な問題が提示され、文書目録、公開の方法など、可能な事項は次回会議に報告することとした。

新聞目録については、専門調査員の指示により事務局が円滑な作業ができるように検討する方向が示された。

2 平成二三年度第二回現代部会

(平成二三年九月一八日)

前回会議に基づき作成した資料を事務局より提示され、作業工程、妻沼分の目録等を確認した。新聞目録の収集については専門委員例示の他市収集例を参考とする事となった。近代部分との接点や区切りについては未確認であることから近代・現代両部会で協議する必要がある、今後の合同会議などで検討していくこととした。

料編集から通史編刊行までの調査行程を協議した。工程表を作成すること及びその大筋は了承されたが、調査史料の年度別配置など詳細具体的な設定を行うことについては疑問や異論が出て結論は出なかった。むしろ、県立文書館等での資料収集や整理などを行う協力の体制や使用資料の選択方法、筆耕方法などの具体的な調査体制の検討を進めるべきとの意見が多く出た。そして、調査に当たっては、資料編に掲載する項目についての目次や想定項目を決めて、それに沿った資料調査をする必要があるとの委員意見に沿って、県史や近隣自治体史の目次や項目を参考に枠組みを検討し、次回部会で具体的な検討をすることとした。なお、資料編は妻沼と熊谷に分かれて発行予定であるが、資料収集は両者同時に作業を進めていく方がよいとした。

通史編では、市域全体を対象とするので大里村史収集資料、各課保存永久文書、外部機関保存文書について所在調査を進めることとした。また事務局で行っている諸家所蔵文書調査の進捗状況について報告があった。

七 民俗専門部会

民俗専門部会長 飯塚 好

1 平成二二年度第二回民俗専門部会

日時 平成二三年二月二〇日(日)午後二時より

場所 熊谷図書館第二会議室

内容 ①平成二二年度調査研究活動の状況確認、②平成二三年度調査研究活動の計画についてが議題であった。また、金子幸雄専門調査員を委嘱した。二十三年度から平井隆氏を専門調査員に委嘱することについて確認した。

小島 久下、玉井、久保島の現地調査、及び文献調査

② 住生活 民俗基礎調査調査票整理

③ 衣生活 民俗基礎調査調査票作成

④ 民俗芸能調査

上川原神道香取流棒術、間々田万作、東別府祭囃子、池上獅子舞

写真撮影及び調査

お獅子様 原島

高城神社の胎内くぐり

水神様 台、小島

夏祭り 弥藤吾、代

獅子の土用干し 玉井後岡

地藏様 高柳、永井太田太田新田、上中条、上江袋

大山灯籠 今井、八木田、上須戸、永井太田、出来島、

弥藤吾、江波

お焚き上げ、日向

3 調査

① 口頭伝承 妻沼地域巡見、八木田、妻沼、飯塚、高柳、

八 妻沼聖天山の建築専門部会

妻沼聖天山の建築専門部会長 大河 直躬

1 専門部会設置までの経緯

平成二三年度に長年の保存修理工事を完成させた妻沼聖天山の聖天堂は、市の内外から多くの人を集め、新熊谷市の象徴的な建造物となっている。『熊谷市史』では、聖天堂や聖天山のその他の建築物をより多くの市民に知ってもらうため、別編として「妻沼聖天山の建築編」を刊行する。平成二三年度の調査開始、二七年度の刊行を目指し、準備を進めた。

編集委員については、建築分野の担当として、内海勝博氏(元聖天堂修理事務所長)、歴史分野の担当として石山秀和委員と細野健太郎委員(近世専門部会からの推薦)を委嘱した。

平成二二年九月二〇日には、石山・細野委員が、聖天堂造営の棟梁である林家の文書の調査を行った。調査の結果、いずれも熊谷市史の編さんにとって重要な文書であり、すべて筆耕・翻刻する必要があると判断された。

2 第一回専門部会会議(平成二三年七月七日)

まず、本の章立てについての検討を行い、現段階では以下のように決定した(括弧内は担当者)。

序論 妻沼聖天山の建築史上の位置(部会長)

一 聖天山の歴史 創立く江戸(石山・細野委員)

二 林家の歴史と職人 工事組織(内海・石山・細野委員)

三 聖天山の建築(聖天堂以外も含めて)(内海委員)

四 修復工事の発見・成果(内海委員)

五 聖天堂建築の影響(内海・石山・細野委員)

六 その後の妻沼聖天山(内海・石山・細野委員)

また、この日は、歓喜院の鈴木英全院長にもご出席いただき、本の刊行及び当部会の活動についての御理解を賜った。会議終了後には、聖天堂の視察を行った。

3 歴史部門担当者会議・資料調査(平成二三年九月二七日)

石山・細野両委員が、埼玉県立文書館にて資料調査及び会議を行った。資料調査は、埼玉県立文書館の保管する妻沼聖天山の建築に関わる文書を実見し、デジタルカメラにて写真撮影を行った。さらに、自治体史刊行物などの書籍調査を行った。会議では、現時点での調査の進捗状況を確認し、今後の方向性について検討した。